

9月17日(日) 第二礼拝「ロシュ・ハシャナ」 マタイ 24章 30-31節

ロシュは「頭、始まり」、ハシャナは「年」という意味で、ユダヤ暦の正月であり、「ラッパの祭り」とも言われます。アダムとエバが造られて5784年です。5は恵み、7は完全、8は甦り、4は門(扉)という意味です。十字架で、恵みが完全になり、イエス様は甦りました。今年福音の門が開かれる年となります。

第一番目、異邦人に福音の扉が開かれました。使徒の働き 10章、百人隊長の Kornelius は幻の中で、ペテロを招いて福音(ラッパ)を聞きなさいと言われます。ペテロも幻の中で、大きな入れ物に入った様々な動物をほふって食べるように言われますが、彼が断ると、「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない。」と主から言われます。その後、ペテロは Kornelius の家に行き、イエス様が全ての人の主であること、良いわざと癒し、十字架の死と三日目の甦り、罪の赦し、聖霊が下ることとを語ると、話を聞いていた人々(異邦人)に、聖霊が下りました。このように、異邦人にも福音の扉が開かれていきました。

第二番目、聖霊が臨む時、福音を語る者となります。スミス・ウィグルスワースという人は家庭が貧しく無学で、26歳でやっと聖書を読むことができるようになりました。彼の妻が説教をしている間、彼は奉仕をしていましたが、その時聖霊を受け、後に説教者となり、大リバイバルが起こりました。その炎はイギリス、ヨーロッパ、アメリカにまで広がりました。14名の死者が生き返り、両足義足だった聖公会の牧師は、スミスの示しにより、新しい靴を買って履いた瞬間、自分の足に変わりました。聖霊が臨んで、福音のラッパを吹き鳴らした時、罪が赦され、癒され、救いと永遠のいのちが人々に与えられていったのです。

第三番目、日本の福音の門が開かれます。ある姉妹の受けた幻で、砂漠のような日本に、聖霊の風が吹いて来て、埋もれていた時計が現れました。福音のラッパが吹き鳴らされ、双葉が芽を出し、日本、韓国、中国、イスラエルまで福音の門が開かれる年となるのです。同時に、大きな黒い建物(暗闇の勢力)が表に出てきて、悪が解き放たれる時代ともなります。今、私達は聖霊に満たされる時です。なぜなら、イエス様の再臨の時、聖霊に満たされた人と、そうでない人とに分かれるからです。マタイ 25章聖霊に満たされた5人の賢い娘達は婚礼に入り、愚かな娘達には扉が閉められました。また、福音を伝えていく時に、土に眠っていた種(過去に蒔かれていた福音)も発芽し、実を結び、その芽生えた双葉(信仰)は教会の中で育てられていきます。ヨハネ 9:4 私達は光がある間に福音を宣べ伝えないとはいけません。幻の中の黒い建物とは、New World Order(バビロン、全世界を奴隷化・共産化する帝国)による支配です。宗教統合されイエス様への信仰を禁止される時代が来ます。ですから、IIテモテ 4:2、今は、時が良くても悪くても福音を宣べ伝える時なのです。使徒の働き 8:26-42 エチオピア人の宦官の洗礼の後、主の霊がピリポを連れ去りました。ここで使われるヘルパセンという言葉は、急に引いて取って行くという意味で携挙を表します。私達がいつも聖霊に満たされて歩いていくなら、時が来て天に瞬間移動(携挙)していくのです。アーメン!